

# 選択的評価事項に係る評価

## 自己評価書

令和4年6月  
富山高等専門学校

- ・自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
  - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号を記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、当該ページを印刷した資料（該当資料名、資料番号を記入）及びそのURLを欄中に貼付すること。
  - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字程度を目安とすること。  
なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号を記入すること。
- ・根拠資料のみでは、内容が伝わりにくい場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄もしくは根拠資料内に簡単な補足説明を加えること。
- ・関係法令の略は次のとおり。  
(法)学校教育法、(設)高等専門学校設置基準

## I 高等専門学校の現況及び特徴

1. 高等専門学校名	富山高等専門学校
2. 所在地	富山県富山市本郷町13番地、富山県射水市海老江練合1-2
3. 学科等の構成	準学士課程：機械システム工学科、電気制御システム工学科、物質化学工学科、電子情報工学科、国際ビジネス学科、商船学科 専攻科課程：エコデザイン工学専攻、制御情報システム工学専攻、国際ビジネス学専攻、海事システム工学専攻
4. 認証評価以外の 第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：エコデザイン工学専攻、制御情報システム工学専攻、国際ビジネス学専攻、海事システム工学専攻） J A B E E 認定プログラム（専攻名：エコデザイン工学専攻、制御情報システム工学専攻） その他（数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定、STCW条約第1章第8規則に基づく資質基準外部監査）
5. 学生数及び教員数 (評価実施年度の5月1日現在)	学生数：1,392人 教員数：専任教員76人 助手数：1人

## (2)特徴

富山高等専門学校は、富山工業高等専門学校（昭和39年設置）と富山商船高等専門学校（昭和42年設置）が、平成21年に高度化再編による統合により設置された。工学系4学科（機械システム工学科、電気制御システム工学科、物質化学工学科、電子情報工学科）、全国では稀有の文系の国際ビジネス学科、東日本では唯一の商船学科という幅広い教育分野の本科6学科、専攻科4専攻を有する全国でも例のない高専となっている。

国内有数の高等教育研究機関として、また国内57の高等専門学校の学術的・産業的研究分野のトップ校として、科学技術・海洋に関連する高度な研究者、北陸・我が国そして世界で活躍する技術者、ビジネスパーソン、及び海事技術者の育成を行っている。

富山県は歴史的に、北前船の重要な中継港となってきた海洋県であり、この交易によって始まった製薬産業・化学産業、そして立山連峰のダムのエネルギー・水資源利用によって始まった素材加工産業を大きな二本柱とする我が国でも有数の工業県である。県内企業の多くは東南アジアを中心として広く支店網を持つ国際的企業であり、これらの企業の帰国生徒の数も多い。また、富山県の大学は、富山大学以下4つの4年制大学と2つの短期大学しかなく、県内高等教育機関として本校は極めて重要な役割担っている。

本校の多分野にまたがる15歳からの専門基礎教育（すなわちカレッジ教育）は、我が国の特に海事・ビジネスの分野において、そして富山県の人材供給要請に良く対応しており、それぞれの分野及び地域の産業界から高く評価されている(本校は「15歳からはじまるカレッジライフ」をキャッチコピーとしている)。このことは全国でもトップである高専サポート企業の数及び受託研究共同研究件数にも表れている。また、専攻科生を含めた地元就職率は全国高専中第4位であり、1～3位が東京・名古屋・大阪であることから、地方都市の高専としてはトップである。これらのことから地域産業界への貢献度は非常に高いといえる。

## II 目的

### 1. 目的

富山高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(富山高等専門学校学則 第1章第1条)

### 2. 教育理念

本校は、「創意・創造」「自主・自律」「共存・共生」を教育理念とする。

(富山高等専門学校教育理念・教育目標並びに学科・専攻科における教育目標と育成すべき人材像を定める規則 第2条)

### 3. 教育目標

(1)専門知識・技術を有し、将来、研究開発やビジネスをリードする能力を有した人材の育成

(2)自ら考え、主張し、行動する主体性を有した人材の育成

(3)豊かな教養と倫理観を有し、他者や地球との共生の精神を有した人材の育成

(富山高等専門学校教育理念・教育目標並びに学科・専攻科における教育目標と育成すべき人材像を定める規則 第3条)

### 4. 学科の教育目標

#### (1)機械システム工学科

ア 機械学工学およびメカトロニクス知識と技術を総合的に身に付け、機械設計・開発ができる技術者を育成する。

イ 機械設計・生産、材料、ダイナミクス、エネルギー、計測と制御などの機械システム工学の基礎知識を活用できる技術者を育成する。

ウ 機械工学的に考える能力を身に付け、産業分野だけでなく人々の生活で役立つ最先端な機械の設計・開発へと展開できる創造性・探求心豊かな技術者を育成する。

## (2) 電気制御システム工学科

- ア 電気工学，電子工学やコンピュータ，情報処理に関連する技術を総合的に学び，創造的な技術開発ができる技術者を育成する。
- イ エネルギーや情報通信など幅広い分野で社会を支えるシステム開発ができる技術者を育成する。
- ウ ロボットや人工知能など先端かつ融合的分野で人の暮らしに役立つ情報システム作りができる技術者を育成する。

## (3) 物質化学工学科

- ア 化学を基礎として，機能性物質・材料，環境科学，生物化学などの幅広い分野および最先端技術に関する知識・技術を備え，生涯にわたり最前線で活躍する技術者を育成する。
- イ 多様な考え方を理解する幅広い教養を有し，専門知識から新たな物質・材料や新技術を創り出すための判断力と実行力，技術者倫理を備えた創造的な技術者を育成する。
- ウ 化学品・医薬品工業をはじめとする地域の重要産業の発展，さらには環日本海地域および世界の持続的な発展に貢献できる技術者を育成する。

## (4) 電子情報工学科

- ア アプリケーションからAIまでの総合的なプログラムが設計開発できる技術者を育成する。
- イ センサからインターフェースを含む電子回路設計ができる技術者を育成する。
- ウ ネットワークを活用してシステム設計ができる技術者を育成する。

## (5) 国際ビジネス学科

- ア ビジネスに関する専門的な知識を身に付け，活用できる人材を育成する。
- イ 英語と，もう一つの外国語（環日本海諸国語）が使える語学力を身に付けたビジネスパーソンを育成する。

## (6) 商船学科

- ア 船舶の運航や船用プラント運用に必要なシーマンシップを身に付けたグローバルな海技士を育成する。
- イ 海洋をフィールドとしてシステムの開発・構築・管理ができる技術者を育成する。
- ウ 海洋環境を地球規模の視点で考えられるスペシャリストを育成する。

（富山高等専門学校教育理念・教育目標並びに学科・専攻科における教育目標と 育成すべき人材像を定める規則 第4条）

## 5. 専攻科の教育目標

### (1) エコデザイン工学専攻

全ての技術は環境との共存に配慮しなければならないとの理念のもと、本専攻では、エンジニアに必要な工学全般の技術とともに、環境に配慮した技術、すなわちエコテクノロジーについて教育を行う。また、人・地球との共生の精神を理解し、グローバルエンジニアとしての素養を有する人材を育成する。本科教育で修得した基礎学力の上に高度化・複合化した教育を行うとともに、環境関連科目や工業倫理に関する共通科目を編成する。また、PBL教育、インターンシップ、特別研究を通じ、開発能力を有した創造的技術者を育成する。

### (2) 制御情報システム工学専攻

本科で身につけたプログラム設計能力・電子回路設計能力、通信ネットワークに関する知識やものづくり技術をベースに、これらの理論的な裏づけを行う科目、様々な応用システムに関する科目を編成し、より高度な知識・技術を教授する。また、国際的・社会的視野、倫理観を涵養する。そして、企業や他の教育機関との共同教育、問題発見・解決力育成を目指したPBL教育、海外インターンシップ等の国際教育を行う科目を編成し、広い視野と柔軟な適応力を育成する。最終的に、身近な利便性・効率性・信頼性そして持続的社會形成を考慮した情報システム、電子システムあるいはそれらを複合・融合した電子情報システムが創生できる人材を育成する。

### (3) 国際ビジネス学専攻

本科で身につけたビジネスに関する専門知識、外国語（英語、環日本海諸国語）の実践的運用力、情報リテラシーをベースに、経営学を中心としたビジネスに関する高度な専門知識を修得する科目やその専門知識を応用する科目を編成し、高度な知識と実践的な分析能力を持つ人材を育成する。ビジネスと関係の深い生産技術・輸送技術への理解を深め、ビジネスパーソンとしての広い視野を涵養する。また、海外インターンシップや環日本海ビジネス演習などの演習・実習科目を編成し、国際的な経営感覚、環日本海ビジネスの実態とそれを取り巻く環境を学ぶ。これらによって、企業・地域社会を取り巻く環境を分析し、それに適合するビジネスモデルを創成できる人材を育成する。

### (4) 海事システム工学専攻

本科で学んだ海事技術・地球環境・国際性を共通基盤分野として、海事システムの開発、設計を目指し、商船学及び理工学を主とした関連学問分野における高度な知識や技術についての科目を学ぶ。また、PBL教育や海外インターンシップ等を取り入れ、問題の発見解決へのアイデアの着想からシステムの設計・開発までのシステム創生に必要な能力や実践的な語学能力の育成等、専門的能力と技術英語・数学物理学演習等の横断的基礎学力を有機的に結合し編成する。これにより、物流・輸送システムやプラント等の設計・開発等の海事関連分野において、グローバルな視点からシステム創生を担える海事技術者を育成する。

（富山高等専門学校教育理念・教育目標並びに学科・専攻科における教育目標と育成すべき人材像を定める規則 第6条）

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項 A 研究活動の状況

<p>評価の視点</p> <p>A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。</p>			
<p>観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p> <p>【留意点】</p> <p>○ 個々の研究者の持つ研究目的ではなく、学校全体として独自に定めた研究活動を位置付ける目的等を定めていることが求められる。</p>			
<p>関係法令 〔設〕第2条第2項</p> <p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■ 定めている</p>	◇定めていることがわかる資料		
	資料A-1-1-(1)-01_富山高等専門学校における研究活動・地域貢献活動の目的と基本方針・活動方針	本校の研究活動を高専教育の質向上の目的と位置づけ、方針を策定している。	
<p>観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。</p> <p>【留意点】</p> <p>○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。</p> <p>○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。</p> <p>○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。</p>			
<p>関係法令 〔設〕第2条</p> <p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。</p> <p>■ 整備している</p>	◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料		
	資料A-1-2-(1)-01_富山高等専門学校研究高度化推進センター規則	研究目的の推進のための組織として研究高度化推進センターを設置している。	
	資料A-1-2-(1)-02_教員名簿	基本方針1の達成のため、専門科目を担当している教員のほぼ全てが学位を取得しており、学校要覧等の形式で対外的に公開している。	
	資料A-1-2-(1)-03_科研費獲得のための講習会	基本方針2の達成のため、科学研究費などの採択につながる支援を研修などの形で実施している。	
	資料A-1-2-(1)-04_研究者データベース	基本方針3の達成のため、学術論文の成果をResearchmapに公開しているほか、本校のWebページにて、最近の業績を公開している。	
	資料A-1-2-(1)-05_研究推進フォーラム	基本方針3の達成のため、専攻科1年生の研究成果を共有・対外的に公開するための事業（研究推進高度化フォーラム）を実施している。	

(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。  ■ 整備している	◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料		
	資料A-1-2-(2)-01_研究に用いることができる装置一覧	基本方針1の推進のため、本校設備では共通で利用できる装置を整備し、本校のホームページ内で対外的に公表している。	
	資料A-1-2-(2)-02_機器共用ネットワーク（非公表）	基本方針2の推進のため、本校設備でまかなえない最先端設備を長岡技術科学大学が推進している装置共通・遠隔利用のプログラムの拠点機関として参画することで運用できる仕組みを構築している。	
	資料A-1-2-(2)-03_富山高等専門学校共同研究実施規則	基本方針1および2の実現のため、民間企業等との共同研究の推進や他の助成金の応募採択を通して、研究に必要な経済基盤を構築するための制度を設けている。	
	資料A-1-2-(2)-04_技術振興会パンフレット	基本方針2に関連して、地域産業との連携を促進する組織として富山高等専門学校技術振興会を設置している。	
	資料A-1-2-(1)-04_研究者データベース	基本方針3の達成のため、学術論文の成果をResearchmapに公開しているほか、本校のWebページにて、最近の業績を公開できるしくみを整備している。	再掲
(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。  ■ 整備している	◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料		
	資料A-1-2-(3)-01_若手研究者のスタートアップ支援募集案内	基本方針1の達成のため、本校に着任後年数の浅い教員に対して、研究立ち上げに必要な資金的な援助を行っている。	
	資料A-1-2-(3)-02_令和3年度第10回研究高度化推進センター会議議事要旨	若手研究者のスタートアップ支援への申請を研究高度化推進センター会議で承認し、予算を配分した。	
	資料A-1-2-(3)-03_富山高等専門学校研究奨励賞表彰要項	研究目的2に関連して、科学研究費の審査で高評価だった教員に対して研究奨励賞を授与し、次年度の申請の支援を行っている。	
	資料A-1-2-(3)-04_研究奨励賞受賞者	国内又は国外において学術上優れた研究成果を挙げたと認められる研究者に対して研究奨励賞を授与した。	
	資料A-1-2-(3)-05_共同研究に対する助成実施要領	研究目的2に関連して、民間企業との共同研究を行っている教員に対して、研究活性化の為に資金支援を行っている。	
	資料A-1-2-(3)-06_共同研究に対する助成一覧（非公表）	技術振興会会員企業と共同研究契約をした研究代表者への助成を行っている。	
	資料A-1-2-(3)-07_高専高度化推進経費報告書（非公表）	基本方針2の達成のため、2名の産学官連携コーディネーターを独自予算で雇用し、技術相談等の研究支援を行っている。	
	資料A-1-2-(3)-08_コーディネーターによる活動支援（非公表）	令和3年度は産学官連携コーディネーターが支援し、12件の技術相談を行った。	
	資料A-1-2-(3)-09_論文投稿に対する助成募集案内	基本方針3の達成のため、教員が得た研究成果を学術論文として発表する際の経費補助を行っている。	
	資料A-1-2-(3)-02_令和3年度第10回研究高度化推進センター会議議事要旨	論文投稿に対する助成への申請を研究高度化推進センター会議で承認し、予算を配分した。	再掲
	資料A-1-2-(3)-10_とやまKOSENコラボフォーラム	基本方針3に関連して、教員の研究成果を地域産業と共有し、さらなる連携を行うフォーラムを開催している。（令和2年度から新型コロナウイルスの感染拡大の影響で開催を見合わせている）	
(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。  ■ 行われている	◇研究活動の実施状況がわかる資料		
	資料A-1-2-(4)-01_外部資金の受け入れ状況	研究目的2に関連して、共同研究が多数実施されている。	
	資料A-1-2-(4)-02_令和4年度科研費獲得状況（非公表）	研究目的2に関連して、科学研究費補助金が多数採択されており、令和4年度は若干ではあるが採択件数、採択率とも向上した。	
	資料A-1-2-(1)-04_研究者データベース	基本方針3の達成のため、学術論文の成果をResearchmapに公開しているほか、本校のWebページにて、最近の業績を公開している。	再掲

**観点A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。**

**【留意点】**

- 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。
- 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。	◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料		
■ 得られている	資料A-1-3-(1)-01_富山高専の研究力	基本方針1に関連して、外部機関に委託して国際的データベース（Web of Science）を活用した本校の研究力を定量化し、全国高専の中でも優れた実績を持っていることを確認、本校Webページを通して公開している。	
	資料A-1-2-(4)-01_外部資金の受け入れ状況	研究目的2に関連して、共同研究が多数実施されている。	再掲
	資料A-1-2-(4)-02_令和4年度科研費獲得状況（非公表）	研究目的2に関連して、科学研究費補助金が多数採択されており、令和4年度は若干ではあるが採択件数、採択率とも向上した。	再掲
	資料A-1-2-(1)-05_研究推進フォーラム	基本方針3の達成のため、専攻科1年生の研究成果を共有・対外的に公開するための事業（研究推進高度化フォーラム）を毎年開催している。	再掲

**観点A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。**

**【留意点】**

- 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。
- 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。
- 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 観点A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。	◇改善の体制がわかる資料		
■ 整備している	資料A-1-2-(1)-01_富山高等専門学校研究高度化推進センター規則	研究高度化推進センター規則第4条(4)において、外部資金獲得に向けた企画・支援に関することを研究高度化推進センターにおいて取扱うことが定められている。	再掲
	資料A-1-4-(1)-01_科研費獲得のための講習会	研究高度化推進センターにおいて、科研費獲得のための講習会を開催し、科研費獲得につながる支援を行った。	



<p>◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>資料A-1-4-(1)-01_科研費獲得のための講習会</p> <p>資料A-1-2-(4)-02_令和4年度科研費獲得状況（非公表）</p> <p>資料A-1-4-(1)-02_令和3年度科研費スケジュール（非公表）</p> <p>資料A-1-4-(1)-03_相互査読及び応募予定調査</p> <p>令和3年度科研費の採択件数が少なかったため、研究高度化推進センターでは、科研費の採択率向上のための講習会を開催し、相互査読等の科研費採択支援のための仕組みを提供した。令和4年度の科研費採択件数は前年度より増加した。</p>		
		再掲
		再掲

**A-1 特記事項** この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

該当なし		

**選択的評価事項 A 目的の達成状況の判断**

<p>■ 目的の達成状況が良好である</p>	
------------------------	--

**選択的評価事項 A**

**優れた点**

<p>これまでの研究推進のための取り組みにより、特に科学研究費などの外部資金獲得実績に改善がみられた。</p>			
	資料A-1-4-(1)-03_相互査読及び応募予定調査	相互査読等の科研費採択支援のための仕組みを提供し、教員が自分に合う支援を受けられるように調査を行った。	再掲
	資料A-1-2-(4)-02_令和4年度科研費獲得状況（非公表）	令和4年度の新規科研費採択件数は前年度より増加した。	再掲

**改善を要する点**

<p>これまで明文化されていなかった本校における研究の目的および基本方針にもとづき、本校の研究活動を定量化してその分析結果にもとづいて今後の方向性を検討する必要がある。</p>			
	資料A-1-1-(1)-01_富山高等専門学校における研究活動・地域貢献活動の目的と基本方針・活動方針	本校の研究活動を高専教育の質向上の目的と位置づけ、方針を策定している。	再掲

選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況

<p><b>評価の視点</b></p> <p>B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。</p>			
<p><b>観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</b></p> <p><b>【留意点】</b></p> <p>○ 学校全体として独自に定めた地域貢献活動を位置付ける目的等を定めていることが求められる。</p>			
<p><b>関係法令 (法)第107条 (設)第21条</b></p> <p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■ 定めている</p>	◇定めていることがわかる資料		
	資料A-1-1-(1)-01_富山高等専門学校における研究活動・地域貢献活動の目的と基本方針・活動方針	研究活動などを通じた地域貢献活動・社会貢献活動等に関する目的、基本方針・目標等を定めている。	再掲
<p><b>観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。</b></p> <p><b>【留意点】</b></p> <p>○ 実施体制について分析することは必須ではない。</p>			
<p><b>関係法令 (法)第107条 (設)第21条</b></p> <p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。</p> <p>■ 策定している</p>	◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料		
	資料B-1-2-(1)-01_富山高等専門学校ソリューションセンター規則	地域貢献活動・社会貢献活動を担当するソリューションセンターの目的・業務・方針等を定めている。	
	資料B-1-2-(1)-02_R3年度ソリューションセンター年度計画 (非公表)	R3年度のソリューションセンターの年度計画が示されている。	
	資料B-1-2-(1)-03_R4年度ソリューションセンター年度計画 (非公表)	R4年度のソリューションセンターの年度計画が示されている。	
	資料B-1-2-(1)-04_富山高等専門学校技術振興会会則	本校とともに地域貢献活動・社会貢献活動等を実施する富山高等専門学校技術振興会の事業内容等を定めている。	
	資料B-1-2-(1)-05_富山高等専門学校技術振興会事業計画	R3年度 (R3年10月～R4年9月) の富山高等専門学校技術振興会の年度計画が示されている。	

(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施している	◇実施状況がわかる資料		
	資料B-1-2-(2)-01_共同研究・受託研究・技術相談 実施状況等	R3年度における共同研究・受託研究・技術相談などの実施状況を示している。	
	資料B-1-2-(2)-02_ジュニアドクター育成塾実施状況等	R3年度におけるジュニアドクター育成塾の実施状況を示している。	
	資料B-1-2-(2)-03_公開講座実施状況等	R3年度における公開講座の実施状況について示している。	
	資料B-1-2-(2)-04_出前授業実施状況等	R3年度における出前授業の実施状況について示している。	
	資料B-1-2-(2)-05_企業研究会案内資料（非公表）	R3年度における企業研究会の実施内容を示している。	
	資料B-1-2-(2)-06_KOSENコラボフォーラム案内ポスター	R3年度におけるKOSENコラボフォーラムの実施内容を示している。	
	資料B-1-2-(2)-07_Ti-TEAM概要（非公表）	R3年度におけるTi-TEAMの実施内容を示している。	

**観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。**

**【留意点】**

○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 認められる	◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等）		
	資料B-1-3-(1)-01_R3年度共同研究・受託研究・技術相談の件数（非公表）	R3年度における共同研究・受託研究・技術相談の件数や金額を示している。	
	資料B-1-3-(1)-02_R3年度公開講座の実施件数（非公表）	R3年度における公開講座の実施件数について示している。	
	資料B-1-3-(1)-03_R3年度出前授業の実施件数（非公表）	R3年度における出前授業の実施件数について示している。	
	資料B-1-3-(1)-04_ジュニアドクター育成塾応募者・参加人数（非公表）	R3年度におけるジュニアドクター育成塾の応募者・参加者の人数を示している。	
	資料B-1-3-(1)-05_企業研究会アンケート結果（非公表）	R3年度における企業研究会参加者のアンケート結果を示している。	
	資料B-1-3-(1)-06_KOSENコラボフォーラムアンケート結果（非公表）	R3年度におけるKOSENコラボフォーラム参加者のアンケート結果を示している。	
	資料B-1-3-(1)-07_Ti-Teamの研究レポート	R3年度におけるTi-TEAMの活動成果を示している。	

**観点B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。**

**【留意点】**

○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。

○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 観点B-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。  <input checked="" type="checkbox"/> 整備している	◇改善の体制がわかる資料		
	資料B-1-2-(1)-01_富山高等専門学校ソリューションセンター規則	ソリューションセンター会議が、地域貢献活動・社会貢献活動等に関する問題点を把握し、その問題点を改善することを定めている。	再掲
	資料B-1-4-(1)-01_令和3年度第30回ソリューションセンター会議 議事要旨	ソリューションセンターの業務には事業計画の策定があり、当該年度の実績を評価することにより、次年度の事業計画の改善を行っている。	
	◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。		
<b>B-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。			
選択的評価事項B 目的の達成状況の判断  <input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である			
<b>優れた点</b>			
改善を要する点			